次期「杜の都環境プラン」における定量目標について

施策分野	項目	把握の方法	把握の頻度	目標設定の考え方等
脱炭素	温室効果ガス排出量	・温室効果ガス削減アクションプログラムを通じて、各	毎年	・国の地球温暖化対策計画に基づく施策による削減見込量に、本市独自の
都市づくり	2030 年度における排出量を 2013 年度比で 35%以上削減し	事業者の排出実績を把握		施策による削減分を上乗せして設定
	ます	・その他、各種統計資料等を用いて推計		・なお、次期「地球温暖化対策推進計画」においては、長期目標として、
	※ 地球温暖化対策推進計画において検討			2050 年排出実質ゼロを掲げる
自然共生	みどりの総量	・航空写真により、市域における緑被率(樹林地、草	1回/5年	・自然環境の保全や市街地の緑化に係る量的な指標として、現行計画に
都市づくり	みどりの総量(緑被率)について、現在の水準を維持・向	地、農地、水面に覆われた土地の面積割合)を把握		引き続き目標とする
	上させます			
	猛禽類の生息環境	・植生図をもとに、オオタカとサシバの生息に適した	1回/5年	・里地里山の保全・維持管理状況等について、生物多様性の保全の観点
	生態系の頂点に位置し、良好な里地里山環境の指標となる	地域の面積を推計		から進捗を測るため、現行計画に引き続き目標とする
	猛禽類(オオタカ・サシバ)の生息環境を維持・向上させ			
	ます			
	身近な生きものの認識度	アンケート調査により、カッコウやトンボなど9種	1回/5年	・市民と生きもののつながりに関する指標として、現行計画に引き続き
	身近な生きもの(9種)について、全ての種における市民	の身近な生きものについて、過去1年間に見た・聞		目標とする
	の認識度を現在よりも向上させます	いたと回答する市民の割合を把握		・ただし、評価方法について、「9種類の合計値を現在よりも向上から、
		・アンケートは中学1年生とその家族(計3,500人程		「全ての種における認識度を現在よりも向上」へと変更
		度)を対象		
資源循環 都市づくり	※ 一般廃棄物処理基本計画において検討			
————— 快適環境	環境基準の達成状況	・大気や騒音、水質等の環境調査により、達成状況を把	毎年	・生活環境の保全に係る客観的な指標として、現行計画に引き続き目標
都市づくり	大気や水、土壌などに関する環境基準(二酸化窒素につい	握		とする
	てはゾーン下限値)を達成します			
	環境に関する満足度	・アンケート調査により、「空気のきれいさ」や「まち	1回/5年	・本市の環境に対する、市民の主観による評価を把握するため、現行計
	市民の「環境に関する満足度」(8項目)について、全ての	の静けさ」などの8項目について、「満足している」		画に引き続き目標とする
	項目における満足度を現在よりも向上させます	または「やや満足している」と回答する市民の割合		・ただし、評価方法について、「8項目の合計値を現在よりも向上」か
		を把握		ら、「全ての項目における満足度を現在よりも向上」へと変更
		・アンケートは無作為抽出による市民 3,000 人を対象		
行動できる	日常生活における環境配慮行動	・アンケート調査により、省エネやごみの分別などの	1回/5年	・環境配慮行動の浸透状況を把握するため、現行計画に引き続き目標と
人づくり	日常生活における市民の環境配慮行動(25項目)につい	25 項目の環境配慮行動について、「常に実践してい		する
	て、全ての項目における実践割合を現在よりも向上させます	る」または「できるだけ実践している」と回答する		・ただし、評価方法について、「25項目の合計値を現在よりも向上」か
		市民の割合を把握		ら、「全ての項目を現在よりも向上」へと変更
		・アンケートは無作為抽出による市民 3,000 人を対象		